

芸術・スポーツビジネス専攻

芸術・スポーツの持つ価値と力を多角的なアプローチによって活用し

社会の課題解決に立ち向かい

豊かな未来を拓く人材を育成します。



★ 芸術・スポーツビジネス専攻 4年間のスキルアップ

1年

ビジネスを学ぶための
基本を身につける

「アカデミック・スキル」「経営学概論」「政策学概論」「マーケティング概論」など4年間の学びの土台となるリテラシーをじっくりと身につけます。

2年

芸術・スポーツの
最先端に触れる

各教員の専門科目を皮切りに、芸術・スポーツビジネスの専門領域に踏み込み、深く掘り下げます。

3年

芸術・スポーツの
マネジメント力を養う

企画実践を通して、芸術・スポーツの「マネジメント力」や新たな文化ビジネスを「発想・企画する力」を身につけることが出来ます。

4年

4年間の学び・実践の
集大成

研究・実践活動の総決算として、卒業論文に取り組み、理論・実践の両面からこれまでの学びの軌跡を振り返り、自らの指針となる確固たる視座を得ます。

★ 専攻専門科目

- | | | | | |
|---------------|--------------|----------------|-----------------|---------------|
| ■ 経済学概論 | ■ 文化コーディネート論 | ■ ゲーム理論 | ■ インターンシップ | ■ 芸術プロデュース論 |
| ■ マーケティング概論 | ■ 経営学概論 | ■ 文化の多様性 | ■ 公会計論 | ■ ビジネストレンド |
| ■ 芸術文化政策学 | ■ 政策学概論 | ■ 簿記 | ■ スポーツと医療 | ■ デジタルコンテンツ産業 |
| ■ スポーツマーケティング | ■ アートプロジェクト論 | ■ 統計学の基礎 | ■ 芸術・スポーツビジネス実習 | ■ ビジネス研究法 |
| ■ 演劇マネジメント | ■ スポーツマネジメント | ■ 地域文化論 | ■ 芸術・スポーツビジネス入門 | ■ 会計学概論 |
| ■ NPOマネジメント | ■ 音響・照明 | ■ ビジネス実務 | ■ スポーツ経済学 | ■ 芸術経営学 |
| ■ ファンドレイジング | ■ ケーススタディ | ■ スポーツプロデュース論 | ■ 芸術・スポーツビジネス演習 | ■ 音楽マネジメント |
| ■ シアターマネジメント | ■ スポーツ組織論 | ■ ビジネス実務英語 | ■ イベントマネジメント | ■ 舞台芸術鑑賞論 |
| ■ 広報メディア戦略論 | ■ 美術マネジメント | ■ アスリートブランディング | ■ 発想力 | ■ 知的財産権論 他 |

アートマネジメント音楽研究室



宇田川 耕一

Koichi Udagawa

令和9年3月退職予定

ビジネスリーダーはアートから深く学ぶ。

みなさんには、ぜひ「正解のない問い」を追い続ける4年間を過ごしてほしいと思います。つまり、教員から一方的に学ぶ「学習」から、自ら課題をみつけて取り組む「研究」への進化ですね。

この研究室では音楽、美術、演劇などのアートとマネジメントを組み合わせた「アートマネジメント」のうち、クラシック音楽分野を中心に、コンサートの企画やマネジメントの仕事について学びます。特に、芸術組織の経営に関する知識や実践方法について、ケーススタディを豊富に取り入れディスカッションやプレゼンテーションを交えて研究します。



アートプロジェクト研究室



柴田 尚

Hisashi Shibata

令和10年3月退職予定

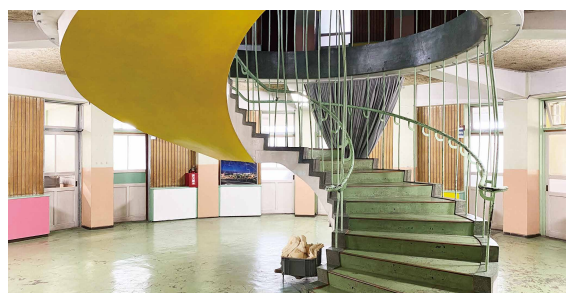
社会とアートをつなぎ、新たな仕事を創造する。

専門の美術だけでなく、音楽、映像、サーカスなど様々なアートと関わってきました。また、世界37カ国以上のアーティストとの交流を通して国際的な文化も学んできました。

自らの関心ごとと社会をどう結びつけて、存在していくべきか。

アートプロジェクトは、日常に「新鮮な驚き」を見出し、実践する方法のひとつです。まちづくり、福祉、地場産業など、社会の様々な問題も学びながら、その解決に向け、文化の役割を考え、実践していきます。

現代社会の様々な問題に関わりながら、その解決に向けて、共に研究を進めてみませんか。



地域文化政策研究室



角 美弥子

Miyako Sumi

知らない世界のとびらをひらく

みなさんを取り囲んでいる世界の中で、私たちが知っていることはごくわずかです。小さなことに気づき、知っていくことが世界を広げる第一歩となります。

教員は琵琶楽や民俗芸能などの無形の文化財の保存継承、活用について研究を行っていますが、そのほかさまざまな事象に関わる「知りたい」「理解したい」「役立てたい」が集まる研究室です。みなさんの好奇心を育てて、無限に広がる世界に飛び込んでみませんか。



芸術文化政策研究室



閔 鎮京

Jinkyung Min

社会に活かす文化芸術の飛躍力と役割を考えよう

皆さんの街にある文化会館・市民会館・音楽ホール等に行ったことがありますね。その施設はどんな目的で建てられたのでしょうか。誰でも気軽に入出入りでき、イベントに参加できるのですが、いつも一部の人だけが楽しんでいますか。本来、文化施設は皆さんに大きく開かれた公共空間のはずです。なぜこのような事が起きるのでしょうか。

地域社会における文化芸術の多面的価値を究めたい、創造現場のリアルを体験したい学生は、本研究室で、文化芸術の新しい社会的役割や公共性等と一緒に考えてみませんか。



ヘルスケア・スポーツマネジメント研究室

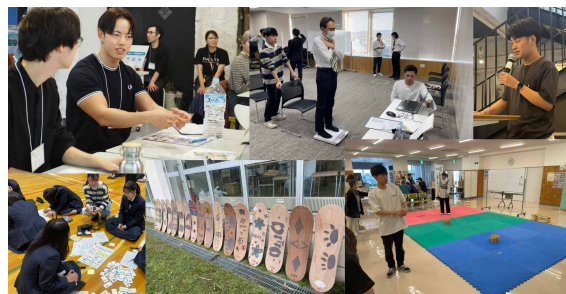


鈴木 哲平

Teppei Suzuki

スポーツを活用した「健康まちづくり」を考えよう!

身体的・精神的・社会的な健康（ウェルビーイング）に注目が集まっている現在において、スポーツ分野とヘルスケア分野を連携させた、新しいビジネス創造が求められています。私たちの研究室では、「健康」、「スポーツ」、「アントレプレナーシップ教育」の3つをテーマに、市民向け運動イベントの企画・運営、ヘルスケア分野における学生ベンチャーの起業に向けた活動、自治体や企業の健康づくり支援等を行ってきました。皆さんのスポーツに関する知識と経験が、これからの社会に求められています。スポーツを活用した「健康まちづくり」に取り組みませんか？



スポーツマーケティング研究室



武田 丈太郎

Jotaro Takeda

スポーツの価値を活かした豊かな社会創り!

本研究室では、誰でも・いつでも・どこでもスポーツに親しむことのできる社会を実現するために、人と環境の相互作用を生み出すスポーツの価値に注目して市場の創造＝マーケティングを探究しています。

実際の活動では、スポーツそのものに対する知識を身につけながら、スポーツの“マーケティング”について、また、社会の仕組みについて理解を深めながら、スポーツ“を利用した”マーケティングについて学んでいきます。

私たちと一緒に、スポーツの価値を活かして豊かな社会を創っていきませんか。





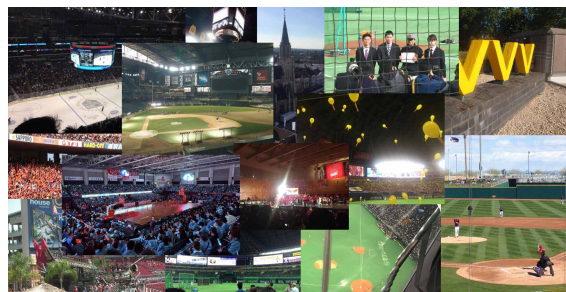
福田 拓哉

Takuya Fukuda

スポーツビジネス戦略参謀本部

担当教員は、Jリーグ、プロ野球、Bリーグでの実務経験と、大学での15年に及ぶ教育研究経験を併せ持つ北海道出身の経営学博士です。研究室では、各種経営数値や現地視察、現場担当者へのヒアリングなどからプロスポーツ組織の課題をあぶり出し、その解決や成長に向けた戦略を立案し、実行できる能力を身につけることを目的に学んでいます。国内外のプロスポーツを題材に経営学を学び、日本のプロスポーツをより成長させられる人材の育成を行います。

ぜひ、私の研究室で一緒に実践的な学びを深めませんか？



Admission Information

入試情報 《 芸術・スポーツビジネス専攻 》

★ 募集人員・選抜方法・配点

	募集人数	選抜方法	配点	
総合型選抜 (自己推薦入試)	8	面接 / 45分程度 ※口頭試問及び「学修計画書」に基づくプレゼンテーションを含む		
一般選抜 (前期日程)	13	大学入学共通テスト	750	1,250
		実技検査 (アイデア・プラン) / 2時間	350	
		面接 (口頭試問含む) / 15~20分程度	150	
一般選抜 (後期日程)	4	大学入学共通テスト	750	1,450
		面接 (口頭試問含む) / 30分程度	700	

★ 各選抜の実施方法等 参考:Q&A (P50)

総合型選抜 (自己推薦入試)

事前に提出する「自己推薦書」、「調査書」、「学修計画書」と、試験当日に課す「面接（口頭試問及び「学修計画書」に基づくプレゼンテーションを含む）」により総合的に評価します。大学入学共通テストは課されません

- ▷「学修計画書」では、「興味・関心のある文化芸術・スポーツ文化に関する国際的なビジネス」、「卒業後の展望」、「卒業後の展望を実現するために学びたい科目・演習及び、自らの成長を促す課外自主活動の計画」を記載します。
- ▷「面接」では、「学修計画書」の内容に基づいて具体的に発表するプレゼンテーションと、「学修計画書」やプレゼンテーション等の内容に関する口頭試問を含めて実施します。プレゼンテーションに必要なものは全て当日各自で持参してください。発表形式は自由で、準備時間（5分程度）を除き、発表時間は10分以内とします。

一般選抜

■ 大学入学共通テスト

必要科目は国語・外国語・数学・地歴公民・理科・情報の6教科6科目です。

■ 前期日程

前期日程では、学力に加え、実技検査や面接を通して企画力や発想力などを測ります。

1. 実技検査（アイデア・プラン）
2. 面接（口頭試問含む）

■ 後期日程

後期日程では、面接（出願時に提出する「活動実績書」の内容に関する口頭試問を含む）の配点が700点と高くなっており、芸術・スポーツビジネスを学ぶ意欲や目的意識などをより重視した選抜方法となっています。

1. 面接（出願時に提出する「活動実績書」の内容に関する口頭試問を含む）

※「学修計画書」、「活動実績書」についてはP50「Q&A」も参照してください。

★ 過去の入試問題 【令和7年度 一般選抜（前期日程）実技検査】

近年では、学校教育から離れたあとも、社会環境や働く環境の変化にあわせて、それぞれのタイミングで学び直し、様々な場面で求められる能力を磨き続けていくことがますます重要になっています。新たな交友関係を築ききっかけにもなることから、健康や生きがいづくり、社会参加などにも役立ちます。また、そのような学びの場を通じた地域コミュニティ形成にも寄与しています。

人口減少や少子高齢化等、地域課題が複雑化していくなかで、世代間交流による学び合いは、地域住民の関係づくりや社会の活性化に寄与する可能性があります。

そこで、芸術・スポーツ文化を活かし、地域住民がその地域で長く学び続けられる学びのプログラムを考え、その内容を解答用紙の①から⑨の項目にまとめなさい。

※芸術を活用したプログラム、スポーツを活用したプログラム、芸術とスポーツを融合させたプログラムの中から一つの形態を選ぶこと

(*) 解答用紙の項目は以下のとおり。

- ①プログラムの名称 ②プログラムの概要 ③プログラムの企画・運営団体 ④プログラムの明確なターゲット ⑤プログラムの効果 ⑦地域住民が長く学び続けられるための独創的な取り組み
- ⑧地域特有の資源を活かす工夫 ⑨具体的内容

過去の試験問題は本学ホームページの「入試情報」で公開されています。
<https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/faculties/exam/data>



■ アイデア・プランとは

試験当日に提示されるテーマから課題を読み解き、解決方法を考えます。

試験では、課題解決方法を考えるうえで必要な項目が記載された解答用紙に解答を記入しますが、絵や図表等を使って自由に記述する欄もあります。

筆記用具は鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのほか、ボールペン、色鉛筆、水性・油性のマーキングペン、定規類が使用可能です。

日頃報道されるニュースや社会問題を意識しつつ、解決のために芸術・スポーツ文化の側面からどのようにアプローチできるかを考えておくとうれしいでしょう。

オープンキャンパスでは簡易版アイデア・プランにチャレンジし、指導を受けることができますので、気になる方は是非参加してみてください。

※入試情報ページに記載の内容は前年度実施した内容であり、今後変更になる可能性があります。必ず大学ホームページや、「入学者選抜要項」「学生募集要項」で最新の情報を確認してください。

Interview

在学生インタビュー

出身校：青森県立弘前中央高等学校

→ 芸術・スポーツビジネス専攻
スポーツマーケティング研究室 3年



内海 虹

Q1. どうして岩見沢校に入学したの？

スポーツについてビジネスの観点から学びたいと思ったからです！

小中高とサッカーをやっていた経験から私は、将来的にスポーツを「支える側」の仕事をしたと考えるようになりました。そこでスポーツについて学べる大学を探しているときにヒットしたのが岩見沢校でした。座学だけでなく、実際に現場に向かい授業も多いということもあり、実践的な学びができ、将来に活かせるのではないかと思います志望しました。

Q2. 今どんな活動をしているの？

岩見沢ねぶたプロジェクト実行委員会という団体で実行委員長として活動しています。毎年夏に行われている「岩見沢ねぶた祭」を通して、岩見沢市をより盛り上げたい！という思いを持ちながら精一杯取り組んでいます。学生主体で企画・運営を行っているイベントであるため、組織作りや協賛のお願いなど難しいと感じるところはありますが、一つ一つ非常に学びになっています。

Q3. 卒業後は何を予定？

スポーツに関わる仕事がしたいと考えています。

幼い頃からいつも私の身の周りのにあったスポーツ。今まで感じてきたスポーツの楽しさや素晴らしさを伝えられるような仕事をしたいです。

Q4. 今まで受けた中で面白かった授業は？

スポーツマーケティングです。スポーツチームや様々な企業のマーケティングを分析してみると、スポーツ業界やスポーツビジネスについての理解も深まりました。そのおかげで、スポーツというものをもっと楽しく触れるだけでなく、ビジネスの観点からも見れるようになり、より面白くスポーツに触れることができるようになりました。



「岩見沢ねぶたプロジェクト」にて行灯を制作している様子



「岩見沢ねぶた祭」当日の写真

受験を考えている皆さんへメッセージ

芸術・スポーツに興味がある人なら絶対に学びがあり且つ楽しめる大学です！

好きという気持ちを自分の成長に繋げられる環境がここには溢れています。そのチャンスをつかみ取れるかはあなた次第！応援しています。

Graduate

卒業生インタビュー

2024年度
スポーツマーケティング研究室 卒業生

平川 悠

就職先 → 株式会社 ファイターズ スポーツ&エンターテイメント



岩見沢校で、多種多様な人と出会い、仲間と共に過ごした刺激的な日々そのものが良い思い出です。私の学年は、コロナ禍で大学に入学し、閉鎖的な環境で過ごした時期もありましたが、そんな環境に負けることなく、「芸術」・「スポーツ」で北海道や世界を舞台に活躍する仲間と出会うことができました。

私の所属していた芸術・スポーツビジネス専攻も、サッカーやフィギュアスケートなどのスポーツに打ち込む仲間や岩見沢で開催される「ねぶた祭」の運営に携わる仲間、スキルアップのために勉学に励む仲間など、各々が個性をもっていました。日々刺激を貰い、互いを高め合いながら生活できたことは貴重な経験でした。また私自身は、高校まで吹奏楽部に所属していましたが、新たな挑戦として準硬式野球部に所属しました。そこで出会った仲間と一緒にプレイしたことも思い出の一つです。

専攻や研究室の活動では、実際にイベントの企画や運営をする機会がありました。その活動において、大学内外だけではなく、住む場所や世代関係なく様々な人と交流することができました。初めましての方々とイベントを創りあげたり、ワークショップを実施したりする中で、自分とは違う考え方や価値観に触れることができ、教科書や参考書からは学ぶことができないような貴重な経験ができました。社会人として、この経験は今後もプラスに繋がっていくと思います。

最後に、岩見沢校ではカリキュラムのみにとどまらず、充実した時間と豊富な経験をすることができます。大学生として、人として成長することができるので、ぜひ岩見沢校で4年間を過ごしてほしいです！



ビジネス専攻での活動実習の授業の一コマ



準硬式野球部での活動